

マイナースポーツの観戦能力に関する研究
—プロボウリングリーグを対象とした若者の印象変化—

釘宮 昇

指導教員 前田 和範

研究背景

1960年代後半から1970年代前半にかけて、ボウリングは国民的ブームとなり、老若男女が楽しめる生涯・レジャースポーツとして定着した。しかし現在では、ボウリング場数や参加人口が大きく減少し、プロスポーツとしての注目度も低下している状況から、ボウリングはマイナースポーツとして位置づけられる。一方で、プロリーグの誕生や事業計画の推進など、新たな普及に向けた動きもある。本研究では、プロボウリングリーグに着目し、マイナースポーツ観戦の観点から普及施策を検討する。

研究目的

本研究は、トップスポーツとプロボウリング観戦を比較し、認知的要素の違いからマイナースポーツにおける観戦能力の可能性を検討するものである。観戦能力の概念をマイナースポーツに応用し、若年層の競技理解を高める点に意義があることに加え、観戦時の認知や理解プロセスに着目した研究の少なさを踏まえ、研究分野の空白を明示する。

研究方法

本研究では、io. LEAGUEの試合を対象としたアンケート調査による事前事後調査を実施し、調査対象は高知県内在住の大学生とした。調査手順は、事前アンケートへの回答後、ボウリングおよびリーグに関する基礎的説明を行い、io. LEAGUEの試合を視聴させた上で、事後アンケートへの回答を求めた。アンケートでは、経験価値と認知的観戦能力について質問を行った。回答者数は65名であり、そのうち63名を有効回答として分析対象とした。

分析結果

本研究の結果として、ボウリングの実施頻度が低い者が大半を占め、io. LEAGUEに対する事前の認知度も極めて低い傾向にあった。一方で、基本的な専門用語については多くの回答者が理解していたが、戦術・技術に関わる用語の理解度は低かった。ボウリングに対するイメージについては、試合視聴後に競技特性や難易度、競争性に関する項目に有意な変化があった。さらに、他プロスポーツ観戦と比較した認知的観戦能力では、複数の要素において差が見られ、プロボウリングは総じて他プロスポーツよりも低い評価となる傾向が示された。

考察・結論

本研究では、ボウリングを対象にマイナースポーツの観戦能力を検討した。その結果、競技特性や難易度に関するイメージ変化、演出や技術認知におけるトップスポーツとの差異が示された。一方で、選手のパフォーマンスの美しさに対する価値認識には共通点もみられた。今後は、知識や演出の発信を通じた価値向上が、ボウリングおよびマイナースポーツ普及で重要であると考えられる。